

(1) 運営委員会報告

昭和53年10月9日、東京天文台において開催された。

出席者：田中、赤羽、森本、海部、平林、会津、鰐目、石黒、小川（以上運営委員）、長根、宮沢、東条、近田、井上

- 議題
1. 宇電懇からの総研 申請について。
 2. 井口基金の運営について。
 3. 宇電懇シンポジウムについて。
 - a) 「最新の電波天文技術」
 - b) 「星の生成—星間ガスから星の誕生まで」
 4. 大型宇宙電波望遠鏡連絡協議会について。

各議題の詳細については次の世話人からの報告を御覧下さい。

(2) 昭和54年度科学研究費（総研）の申請について

宇電懇ニュース第43号に予告しましたが、宇電懇関係で三つの総研を申請しました。もし認められれば、研究費は代表者の元に置き、大型宇宙電波望遠鏡建設の為に打合せ、共同利用の為に研究会等に使う予定です。

- 総合 A) 「宇宙電波観測法の研究」代表者 田中春夫
 総合 A) 「太陽系空間電波観測法の研究」代表者 河合公昭
 総合 B) 「星間物質の化学的進化」代表者 鰐目信三

(昭和53年11月24日 鰐目信三)

(3) 井口基金に関する大学院生の要望書について

OD問題世話人 森本、井上

電波天文OD有志から、運営委員会に「井口基金に関連しての要望」が出され、1978年10月9日の運営委員会で議論を行った。要望の内容は3点にまとめられ、(1)「井口基金」の補充・拡大に努めること、(2)電波望遠鏡の建設・運営にあたって、OD等のため本格的な基金を考へること、(3)OD問題解消のため、宇電懇として努力すること、である。

運営委員会での議論は上記3点とOD問題一般について行われた。問題は簡単に整理出来ないものばかりなので、OD問題の世話役兼まとめ役としてODから井上、スタッフから森本がえらばれた。以下に運営委員会での議論の内容、問題点、国内のOD問題の現状を述べる。

1. 運営委員会での議論

- a) 「井口基金」の問題
 現在ある額(50万円)を基に、何とか浄財を募って支給額を増額・継続させる努力をする。募金の方法、範囲等は至急検討する。
- b) 更にもっと大がかりで永続的な基金
 関連業者などから観測所の外部団体を作って寄付を受けるという案が出されたが、これはODに限らず観測所全体として必要になるかも知れないということになった。しかしこれについてはモラルの点、わずらわしさの点などの問題も指摘された。結論は出ず。

c) OD問題解決
 もっとボス
 一致した。
 されていない
 もできていな
 OD問題には
 増やすこと等
 ついては特に
 具体的な検討

2. OD問題について

OD問題には2つ

- a) ODのみでな
- b) 財政難のた

我々の場合、特
 成・確保とい
 関係の職につ
 問的な問題で
 一方、ODの
 特に建設にあ
 にくくなるこ
 基金」等に対
 ※※) 等の検

(※)

(※※)

上記(1)～
 決をすること
 かし、この療
 天文のポテン
 えることが必

「号外」URSI

今年のURSI
 は、その後の折衝
 また1981年の
 電波源」につい
 詳細は別紙英文サ

c) OD問題解決のため

もっとポストを広げるなどの努力がなされるべきだという点では全員が一致した。しかし、現実には電波望遠鏡計画に対する人員要求も充分なされていないし、一方院生・ODが建設・開発等に積極的に参加できる体制もできていないということであった。

OD問題には長期的・短期的な2面的な問題があり、長期的にはポストを増やすこと等、短期的にはODに対する財政援助等の問題がある。後者については特に早急に色々な方途を検討することにする。また問題点整理、具体的な検討のために世話役兼まとめ役をおくことにする。

2. OD問題について一世話役まとめ

OD問題には2つの側面がある。

- a) ODのみでなく、研究者全てが困っている。少ない定員の問題。
- b) 財政難のため、バイト等で研究から遠くなる。OD自身の問題。

我々の場合、特に大型電波望遠鏡建設期に当って電波天文学の若手人材の養成・確保という点を考えなければならない。(注、最近10年間で宇宙電波関係の職についた人は0人)従ってこれはOD個人の資質の問題ではなく、学問的な問題であり、特にこの点で責任のある教授の努力が望まれる。

一方、ODの研究時間を保証するような財政的援助も早急に必要である。特に建設にあたって野辺山に行く回数が多くなると定期的なアルバイトがしにくくなることが予想される。財政的援助ということから、(1)「井口基金」等に対する募金の問題、(2)研究員制度(※)や研究教育補助者(※※)等の検討、(3)非常勤職員、謝金使用等の検討などが考えられる。

(※) 核研、宇宙線研では任期1~2年、学振と同額支給の制度があり、公募を行っている。

(※※) 本年の九大学理学部長会議で京大林(忠)、名大早川両理学部長が提案。今後10年間の人材確保の為、「手当」の中に「研究教育補助者」という項目を作り、任期2~3年、準助手扱。

上記(1)~(3)その他について早急に検討し、b)について何らかの解決をすることが必要であろう。これは早急に必要な対症療法である。しかし、この療法を恒久化させることは悪状固定であり、宇電懇としても電波天文のポテンシャルを上げ、望遠鏡を充分に運用する為にもa)について考えることが必要であろう。(昭和53年11月12日 井上充)

「号外」URSI 関係のシンポジウムについて

今年のURSI 総会のとき話があった「ミリ波技術」についてのシンポジウムは、その後の折衝で、1980年夏にドイツかフランスでやることになりました。また1981年のワシントンURSI 総会のあとで、VLAの近くで「系外銀河電波源」についてのシンポジウムがIAUと共催で開かれる見込みです。

詳細は別紙英文サーキュラーをご覧ください。

(昭和53年11月25日 田中春夫)

(4) 宇電懇シンポジウムについて

a) 「最新の電波天文技術」シンポジウム

大型宇宙電波望遠鏡計画も本年より建設が始まりました。又各地においても新しい装置をはじめとして新しい技術が開発され、日本の電波天文の一大転換期をむかえようとしています。この時期に電波天文の技術的側面について大いに議論を行うことは有意義なことと考え、以下のようなシンポジウム第0次案を作りました。

- 1) 新技術・新装置 (野辺山宇宙電波観測所を含む)
- 2) 将来計画
- 3) 野辺山宇宙電波観測所の体制について
- 4) URSI 報告 (URSI-J と共催)

日時 1979年 1月 18日PM 19日 20日AM
(木) (金) (土)

場所 名古屋近郊

以上の案についての御意見及び発表を募集しますので世話人までお寄せ下さい。

世話人 小川英夫

〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学 理、物理、A 研

☎ (052) 781-5111 (内) 6657

(昭和53年10月9日 小川英夫)

b) 「星の生成—星間ガスから星の誕生まで」シンポジウム

以下のような第一次案を作成しました。

日程 1979年 2月 5日(月)、6日(火)、7日(水)
(宿泊は4日(日) 夜から、7日は午前中の予定)

場所 八王子セミナーハウス

プログラム (世話人試案)

2月5日	10時	総論 (1) 「星間物質の進化」 (池内)
		総論 (2) 「星間物質の諸相」 (森本)
	12時半	
	(昼食)	
	14時	REVIEW (1) 「星間ガスの分布」 (観測)
		電波 (福井)、HII (佐藤文)、XUV (山下)
		コメント (寿岳)
	17時半	
	(夕食・休憩)	
	19時半	REVIEW (2) 「銀河内での星間雲」 (観測)
		分子、ダスト、星の分布の関連 (奥田)
		コメント (小倉)
	21時	
		懇心会

2月6日

2月7日

- ・一般講演
- ・スピーチ
- ・ようです
- ・12月に

研究会世話
池内

寿岳
福井康
横尾店

- (5) 大型宇宙電
大型宇宙電
とになってい
共同利用委員
議会が設置さ
鰻目、河鶴、

2月6日 9時 REVIEW (3) 「分子雲」 (理論)
 その構造、進化、運動 (中川直)
 分子形成のプロセス (鈴木)
 11時 一般講演
 12時半 (昼食)
 14時 REVIEW (4) 「星の形成へのtrigger とその効率」
 Spiral Arm (藤本)、Ionization Front (中野)
 SNR Shock (池内)、コメント 太陽系の起源
 17時半 (夕食・休憩)
 19時半 コメント Stell r Ring (小田)
 一般講演
 21時

2月7日 9時 REVIEW (5) 「星の誕生時の観測」
 赤外で見て (佐藤修)
 電波で見て (出口or浮田or福井) グロビュル (大谷)
 12時 まとめ (海部、寿岳)

- ・一般講演希望の方は12月末までに下記世話人に御一報下さい。
- ・スピーカー以外の方の旅費は参加者数確定後に決めますが、少々無理のようです。
- ・12月に参加申込書をお送りします。

以上

研究会世話人

池内 了 〒060 札幌市北区北10条西8丁目
 北大・理学部・物理
 ☎ (011) 711-2111 (内) 2693
 寿岳 潤 〒181 三鷹市大沢2-21-1、東京天文台
 福井康雄 ☎ (0422) 32-5111
 横尾広光 〒113 東京都八王子市宮下町476
 杏林大八王子校舎・物理
 ☎ (0426) 91-0011

(昭和53年10月23日 池内 了)

(5) 大型宇宙電波望遠鏡連絡協議会発足

大型宇宙電波望遠鏡の共同利用委員会は、装置の完成後に活動を始めることになっているが、共同利用を目指して建設を進める必要があることから、共同利用委員会の前身として、昭和53年10月18日東京天文台に連絡協議会が設置された。委員は台内7名、台外6名。台外委員は、高窪、小暮、鰐目、河鶴、会津、田原の諸氏。(昭和53年11月25日 田中春夫)

U R S I

COMMISSION J

No. JC-1

From : Chairman of Commission J
To : Vice-Chairman and Official Members of Commission J,
Chairman and Vice-Chairman of Commissions A, B, D, F.
Subject : Preliminary information on a symposium on mm-wave technology

November 24, 1978

Dear Colleague,

At the Helsinki General Assembly, the organization of a symposium on mm-wave technology, especially as applied to radio astronomy was proposed by Commission J. This symposium falls under the category of 'specialized symposia during general assemblies' in contrast to 'open symposia during general assembly'.

In Helsinki, Commission A also proposed a symposium which falls under the second category with a quite similar topic on 'mm- and sub-mm-waves'. The decision which category be adopted was left to the consultation between chairmen of Commissions A and J. After discussions between both chairmen in early September it was agreed that Commission J takes initiative to organize a specialized symposium sometime between 1979 and 81.

There has been a kind offer of being a candidate of host country from Federal Republic of Germany and France, and no other suggestions from other countries so far. I am asking the official members of both countries to consult with each other which of them will be a host country, because they have a joint mm-wave project.

Though the decision has not yet been made, I am circulating this letter for your information, since the time is short if the symposium will be held in 1980. Preliminary idea is as follows :

Title : Symposium on mm-Wave Technology (tentative)

The scope is not yet decided but according to the preliminary discussions in Helsinki inside Commission J, antennas will not be inclusive.

Sponsor : URSI Commission J and hopefully a few other Commissions

Host Organization : Not yet decided

Place : Federal Republic of Germany or France

Date : Summer 1980 (tentative)

As was mentioned by the Past Chairman in Helsinki, Official Members be encouraged to circulate all circular letters among interested institutes and persons inside their country.

Yours sincerely,

H. Tanaka
H. Tanaka, Chairman
URSI Commission J
Tokyo Astronomical Observatory
Mitaka, Tokyo 181
Japan.

From : C
To: Offi
Subject

Dear Col.

I w
Observat
close to
as follow

Title
Spns
Host
Chair
Place
Date

I th
URSI. M
persons

U R S I

COMMISSION J

No. JC-2

24 November 1978

From : Chairman of Commission J
To: Official Members of Commission J
Subject : Preliminary information on a symposium on
'Extragalactic Radio Sources'.

Dear Colleague,

I would like to inform you that NRAO (National Radio Astronomy Observatory, U. S. A.) has proposed to hold a scientific symposium close to the URSI General Assembly, Washington 1981. The idea is as follows.

Title : Extragalactic Radio Sources
Spnsor : IAU and URSI (Subject to approval)
Host Organization : NRAO
Chairman of Scientific Organizing Committee : Dr. K. I. Kellermann
Place : Socorro or Albuquerque, New Mecico, U. S. A.
Date : Summer 1981 (possibly just after URSI Assembly)

I think this is a good idea and I am asking for the approval by URSI. Please circulate this letter among interested institutes and persons inside your country.

Yours sincerely,

H. Tanaka

H. Tanaka, Chairman
URSI Commission J
Tokyo Astronomical Observatory
Mitaka, Tokyo 181
Japan.